

2020. 1. 6

畑 啓之

警察も移動ワンボックスカーを仕立てて地域の相談に応じる出前交番 千葉県

昨年は千葉県も多くの天災に見舞われた。この困難に頼みとなるのが「官」である。政治の力を借りることはもとより、身近で頼りになるのが自衛隊や交番である。

自衛隊は出動命令があればどこへでも駆けつけるが、警察ではそのような機動性を持ち合わせていない。たしかに、初詣、花火大会や祭りのときなどの人出の多い場所には派遣されるが、地域で起こる問題解決に警察が直接に首を突っ込むことは少ない。極端な場合には、民事不介入の錦の御旗を立て、かかわりを拒否する場合もあると聞く。

さて、そのような警察であるが、日本全国に交番を配置し、国民からの相談事への対処や届け出の受付などを行える体制となっている。それでも、交番をもってしても、過疎化や高齢化に対処できない地域が出て来ているのが今日の現状だろう。

千葉県においては「移動派出所(交番)」でそれに対処しているという話である。なるほど、商業施設、例えば飲食業などにおいては出前は当たり前であるが、市役所が出前サービスをしてくれるという話は聞かない。商業であれば出前をすることによりお金が儲かるが、官公庁ではそのような儲けは生じない。千葉県の警察署においては、商業のもうけに対して自分たちの役割がサービスであるということ再認識したに違いない。

今後、この千葉県の警察署がすでに10年間も実施している仕組みが広く官公庁でも広がっていく、いや広がっていかざるを得なくなるのではと考える。

日本経済新聞 2020.1.6

2020. 1. 6

春秋

出前と聞けば、少し前ならお寿司やおそば。最近ではピザが思い浮かぶ。この年末年始、お世話になった人も多いのではないか。こちらは交番を出前する話である。千葉県警は10年ほど前からワンボックス車を改造して走る交番に仕立て、県内各地に派遣している。

▼ほぼすべての警察署に計60台。警察官と交番相談員の3人が乗り込んで、団地やショッピングセンターへ向かう。車の中に机やイスを並べて落とし物や相談ごとを受け付け、お年寄りを集めて防犯教室を開くといった具合だ。子どもが巻き込まれる事件や事故が起これば、学校に横付けして見守り活動を行えるので心強い。

▼千葉県は昨秋、台風15号で大きな被害を受けた。このときは比較的被害が少なかった県北部の署から館山や富津へと連日、移動交番車が出動して避難所などを回った。なにしろエンジンが付いているから、どこまでだって行ける。県内に限らず、東日本大震災や北海道胆振東部地震の被災地にも出かけ、避難生活を支えた。

▼警察、消防、市役所、ガス会社、ボランティア。地震の直後に被災地で取材すると、他県の制服、腕章を身につけた多くの人たちと出会う。間もなく阪神大震災から25年。地震や台風の被害をなくすことは難しいが、互いに声を掛け合い、力を合わせることはできる。各地から集まる善意の出前が希望を与えてくれる。